

## 2009 年度 立命館学校教育研究会「講演会」



2009年6月14日(日)、2009年度立命館学校教育研究会「講演会」が開催されました。尾木直樹先生(教育評論家、法政大学教授)を講師に招き、「ケータイ・ネット時代と子どもの未来～教育改革の行方にふれながら～」と題した講演に、衣笠キャンパスの創思館カンファレンスルームは、約150名の参加者で盛会となりました。講演会後の懇親会においては、約60名の参加で、校友教員や教育関係者と本学学生との交流が積極的に図られました。

講演の冒頭で、尾木先生は、教育には流行ではなく「不易」の部分が多くあると強調され、小泉・安倍内閣の下で推進されてきた「義務教育の構造改革」の象徴である学校選択の自由化にふれて、東京都では入学者ゼロ名の中学校が複数校発生する中で、見直し論議が起きていることなどが紹介されました。また、学力問題に関しては、「学力テスト」を廃止したイギリスの例を紹介しながら、競争で勝てる学力へのこだわりは学力の偏りを生み、結局学力の低下を招くのではないかと指摘されました。

さらに、中高生の大半がケータイを持っている時代の中であって、インターネットの端末としての機能を持つケータイの特徴と思春期の課題の親和性について強調されました。親子関係や友人関係など、自立と依存の間で揺れる思春期にあって、ブログやプロフに他者

に読まれることを意識しながら自己の内面を書くということの親和性です。たとえば、誰かに依存したい、友達がほしい、背伸びして自分を大きく見せたい、性への関心も高いといった願望を、ケータイは実現してくれるように見えるのです。しかし、そこには大きな落とし穴もあります。

講演の最後に尾木先生は、ケータイの利便性と危険性を理解しながら、日常生活における人間関係のあり様を改めて問い直していくことが重要であり、新しいネット文化の担い手になっていく中高生を育てることの大切さを強調されました。

具体的な事例を織り交ぜながら、ユーモアと鋭い指摘にあふれた講演には参加者の笑顔も絶えず、あっという間に内容豊富な時間は経ってしまいました。